

福祉科「コミュニケーション技術」授業実践紹介

授業者：森脇 未来子

学年：3年

単元名：サービス利用者の生活にハリを与え、生きがいを感じてもらえるようなレクリエーションを計画・実施しよう！

単元のねらい（7つのチカラ：考える力、行動する力）

デイサービス（デイケア）センターでの福祉実習において、サービス利用者の状態や状況を考慮して、利用者が生活にハリを感じ、生きがいを感じられるようなレクリエーションを計画・実施することができる【思考・判断・表現】【技能】

単元の流れとパフォーマンス課題

〇パフォーマンス課題〇

あなたは夏休みに福祉実習（デイサービスセンターor デイケアセンター）に行きます。サービス利用者の生活にハリを与え、生きがいを感じてもらえるようなレクリエーションを考え、実施してください。また、実習後、振り返って「できたと思う点・こうすればよかったと思う点・考えられる改善点」を発表してください。

①レクリエーション講習会（2時間）

社会福祉施設におけるレクリエーションの実施方法を外部講師の先生から講義や演習をとおして学びます。

②レクリエーションの意義と目的（1時間）

社会福祉におけるレクリエーションの意義と目的を授業で確認します。

③施設見学（2時間）

実習させていただく施設に見学に行かせていただき、施設の環境、利用者さんの状況などを教えていただきます。

④企画会議！（1時間）

グループでどのようなレクリエーションを実施するか計画を立てます。

⑤レク材の作成（4時間）

レクリエーションに必要なものを作ります。



⑥進行表の作成！（2時間）

企画書にはない、発言や動き、隊形など詳細な計画を立てます。

⑦練習→リハーサル（1時間）

本番と同様にレクリエーションを実施し、手順や分担を確認します。

⑧実習オリエンテーション（1時間）

実習当日の目標や注意点を確認し、実習に向けて気持ちを引き締めます。

⑨実習本番

1日の実習の中で30分の時間をいただき、生徒主導でレクリエーションを実施します。

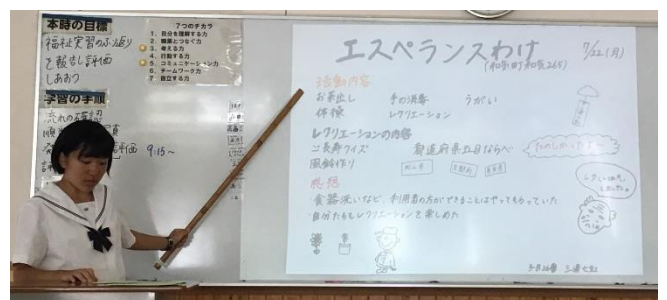
⑩報告用ポスターと原稿の作成（3時間）

実習の振り返りをみんなで共有するため、ポスターを作成し、発表準備を行います。



⑪報告・評価（1時間）

発表者の発表を評価します。もちろん自分の発表も評価します。



パフォーマンス課題の評価

	A (2)	B (1)	C (0)
福祉実習	・サービス利用者の状態や状況を考慮し、レクリエーションの目標を設定し、実施できた。	・レクリエーションの目標を設定し、実施できた。	・レクリエーションの目標を設定、実施できなかった。
ポスター	・B+オリジナルで絵や地図などが入っていたり、色分けされていたりするなど工夫されて、わかりやすい。	・必ず入れる内容がすべて入っている。	・必ず入れる内容がすべて入っていない。
発表内容	・ポスターの内容だけではなく、追加の情報も発表でき、内容も具体的だった。	・ポスターの内容について発表することができ、内容も具体的だった。	・ポスターの内容について発表することが出来なかった。
発表態度	・B+聞く人の反応を確かめながら発表できた。	・服装が整っており、聞く人に訴えかけるよう発表できた。	・服装が整っていない。または、聞く人の方を向いていない発表であった。

単元を通して身につけてほしいこと

レクリエーションは「人間性の回復・再創造」を目的としています。夢中になれる様々な活動を実施し、「利用者の生活の質の向上をはかること」、「加齢や障がいのために楽しめない場面を減らすノーマライゼーションを実現すること」の大切さに気がついてほしいです。また、施設に実習に行かせていただく貴重な機会を大切に、自分たちの考えたレクリエーションを楽しんでいただくためにチャレンジしてほしいです。

実践の背景

「コミュニケーション技術」は「福祉」の科目の一つです。本校では2年生で「社会福祉基礎」「介護福祉基礎」、3年生で「コミュニケーション技術」「生活支援技術」を選択することができます。高齢者、障がいがある方を中心に、すべての人が生活に幸福感を感じて暮らすためどのような支援ができるのか学びます。

福祉実習に行った後の振り返りに改善の必要性を感じていたため、ポスターを描き発表することでそれぞれの実習の内容を共有することができればと思い実践しました。

授業改善のアプローチ

実習後、全体で共有するためにポスターを作成し、発表原稿を書き、発表しました。評価のループブックを提示することで、どのようなポスターを作成し、どのような発表を行えばよいかわかりやすいようにしました。

生徒の変容

実習後、お互いの発表を聴き、それぞれの実習がどうだったのか、レクリエーションは成功したのか共有することができました。「七つの力」のうち「行動する力」は準備の時から施設利用者に喜んでほしい！自分たちも楽しみたい！と前向きに活動できていたこと、「考える力」としてはその後の発表が具体的なものであったことに表れていました。成功したことも、課題に残ったこともありましたが、充実した実習であったことが伝わってきてうれしく感じました。

評価

考査は実施せず、実習の状況（30%）と成果物（20%）、パフォーマンス課題への取り組みと発表で（50%）評価を行いました。